

白子高校 PTA 通信

№.98 2023. 7 発行 三重県立白子高等学校 PTA

ご 挨拶

PTA会長 中島 知子

こんにちは、はじめまして。

2023年度PTA会長をさせていただきますことになりました、中島と申します。皆様方におかれましては、日頃よりPTA活動にご理解、ご協力をいただき

誠にありがとうございます。また、5月13日には3年ぶりに授業公開、PTA総会を開催することができました。こちらにも多数ご出席いただきましてありがとうございました。心より感謝申し上げます。

さて、本年度のPTA活動は、一足飛びにコロナ禍前と同じ活動に戻せないところもありますが、時代に合ったやり方で子どもたちの生活を見守りながら、思い出に残る高校生活となるようサポートしていきたいと思っております。

5月8日から新型コロナウイルスが感染症分類で5類となり、学校でも必須とされていたマスクの着用、三密の回避等の学校生活も個人の裁量に委ねられることになりました。この3年間、規制による不便や我慢を余儀なくされて知った、当たり前だった事が当たり前ではなかった事。仲間を思い共に耐え凌いできた気持ち。これらを大切に、感染予防を心掛けながらも、仲間や周りの人とのふれあいや思い出を増やして、豊かな高校生活を送ってほしいと思っております。

最後になりましたが、子どもたちと成長するPTA活動にするために、保護者の皆様の協力も必要です。

今後の白子高校のPTA活動のためにも、皆様方より一層のご理解とお力添えをいただきますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

東海地区高等学校PTA連合会 岐阜大会

令和5年6月16日（金）長良川国際会議場メインホールにおいて『東海地区高等学校PTA連合会岐阜大会』が開催されました。講演会では、講師濱崎明子先生による「学校や家庭で役立つ心理学～想いを伝えるアンガーマネジメント～」、研究協議においては「コロナ禍に負けない、PTA活動（岐阜県立武義高等学校PTA会長中島千春さん）」、「静岡農業高校PTAの活動（静岡県立静岡農業高等学校PTA会長牧野敦史さん）」、2校の取り組みが発表されました。



未来を担う子どもたちのための一歩を

校長 山口 雅弘



P T A会員の皆様方におかれましては、平素より本校の教育活動にご支援とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

白子高校は地域の方にも見守られながら、創立103年目を迎えました。今後も白子高校の生徒とともに、保護者等や地域の方々が誇ることのできる学校となるよう益々尽力していきます。どうぞよろしくお祈りいたします。

まず、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事が縮小される中、今年度の入学式は吹奏楽コースの生徒による演奏も加わり、多数の保護者の皆様に来場いただき開催することができました。新型コロナウイルス感染症の位置づけが、この5月8日から5類感染症となり、少しずつ学校行事も平常に戻せるものと期待しています。地域など周囲の状況も踏まえながら計画の立案を考えていきますので、どうぞご理解いただきますようお願いいたします。

最近の教育を取り巻く環境は大きく変容しようとしています。最近の動向をまとめてみました。

・こども家庭庁の4月スタート

こども家庭庁は2023年4月に内閣府の外局として設置。こども家庭庁の役割は、子どもおよび子育て家庭の福祉増進、保健の向上、子育て支援、子どもの権利利益の擁護など、内閣の重要政策の事務をサポート。また、子どもの目線や子育てをしている方々の声を重視し、地方自治体やNPO、地域住民との協力を重要視している。

・質の高い教師の確保（教員不足対策）

児童・生徒の多様化や教育DX、少子化など、近年の社会変化を踏まえて新たな学校教育が求められている一方で、各学校種における教員不足が深刻化。新たな学校教育を担う人材として質の高い教師を確保する必要があり、そのためには、教職の魅力向上を図ることが重要で、文部科学省はそのための調査研究会を設置し、給与や働き方改革、学校組織体制などについて検討を行う。

・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学習指導要領が改訂され、新たに示される資質・能力の育成を着実に進めるには、ICTを最大限に活用しながら、“個別最適な学び”と“協働的な学び”の一体的な充実を図っていくことが求められる。そのためには、多様な学びの手段を適切に組み合わせる“ハイブリッドな教育環境”の整備とともに、モデルづくりや研修を含む学校・教員への伴走支援が必要である。

・「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実

学びの充実と協働的な学びの実現を目指し、教育行政を組織的に展開し、外部機関との連携を重視。また、教育行政の事務局の機能強化と一般行政職との連携を促進し、教育委員会会議の活性化を図り、教育長や教育委員の資質・能力向上を支援。

・教員勤務実態調査の結果を踏まえた学校の働き方改革

教員の勤務実態を把握し、働き方改革を推進するため、教育委員会における学校の働き方改革の取り組み状況調査を行い、業務改善方針やICT活用による負担軽減などを実施し、教員の働き方の改善を図る。

など、書き出すときりはありませんが、児童・生徒一人一人の学びを最大限に引き出す「令和の日本型学校教育」や、教員の労働環境の改善において、ICTをいかに活用できるかが、カギになると考えられます。

多様化する児童・生徒のニーズや社会変化に応じた学校教育の実施においては、教員の養成、採用により、質の高い教師を確保することも欠かせません。それとともに、学校が外部機関や地域と連携しながら、教員にかかる負担の軽減を図りつつ、教育関係者が一体となり、新たな学校教育を進めることが求められます。保護者の皆様にはより一層のご理解とご協力が必要であると考えており、現状のご協力には深く感謝するばかりです。

これから始まる夏休みには、生徒たちにとって大切な時間が訪れます。勉強や部活動、趣味や家族との

時間など、様々な経験を通じて、自分を磨いてほしいと思います。また、夏休み明けには、新たな気持ちで学校生活をスタートできるよう、皆様のご支援をお願いいたします。

最後に、今後も三重県立白子高等学校は、生徒たち

が夢を追い求め、自己実現を目指すことができるよう、教育に全力で取り組んでまいります。保護者の皆様とともに、生徒たちの成長を見守り、支えていくことができることを心から願っています。

生徒指導の取り組みについて

生徒指導部 篠木 旭

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

私は本校に赴任して3年目になります。私の生まれ住む自宅は、白子高校から自動車で10分ほどのところにあります。その縁もあり、私は以前から時々、白子高校の辺りを通りがかることや、来校することがありました。その時に見かける白子高校生は身だしなみも良く、横断歩道を渡るときはかけ足で渡り、止まった自動車に向かい一礼していました。また、校内に足を踏み入れると、立ち止まり分離礼をして迎え入れてくれました。校内は掃除が行き届いて清潔が保たれており、来訪した私は、生徒のマナーの良さや落ち着いた雰囲気強く感心しました。

現在の白子高校でも、以前からの取り組みを踏襲して、マナー指導に重点的に取り組んでいます。地域の方々から信頼され、就職や進学に繋げていくためには、何より大切なことの一つであると考えています。

生徒指導部では、①基本的な生活習慣を確立させる②判断力を持ち、自ら考えて行動できる人材の育成③校則を守り、マナー・モラルを身につけさせる④安心と安全を感じることでできる学校づくりの4つを柱に指導しています。

制服の着こなし、交通安全のためのルール遵守、携帯電話の利用マナー、挨拶、清掃活動などに、重きを置いて指導しています。他の高校との違いからご意見をいただくこともありますが、上記の教育目標を実践していくためにも、必要な校則やルールであると考えています。

この機会に保護者の皆様へのお願いがあります。それは、スマートフォンでのSNS利用やゲーム利用についてです。SNSやゲームに長時間夢中になり学業が疎かになったり生活リズムが乱れてしまったりす

る生徒さんもいます。また、SNSの不適切な使用が社会問題になっており、それに起因する誹謗中傷で「いじめ」につながることもあります。本校では、全校集会、学年集会、アンケートなどを利用して、啓発や実態の把握に努め、全教員で注意深く見守っています。ご家庭でも話題にさせていただき、何かあれば是非学校に連絡をいただければと思っています。

学校では地域の方々から、登校マナーや公共の場での振る舞いについて、厳しいご意見をいただくこともあります。そのような声には丁寧に対応させていただき、その都度生徒に啓発しています。その一方では、本校生の善行についても、地域の方々より連絡をいただいておりますので、紹介させていただきます。

①近所の小学生がキックボードで転倒し、ケガをしているのを見かけた本校生が、その小学生を自宅まで送り届けてくれました。②登校途中で道路にゴミが散乱しているのを見かけた本校生が、そのゴミを拾って学校まで持ってきてくれました。③下校時に電車内で乗り過ごして困っていた小学生を助け、箕田駅から白子駅まで一緒に戻ってくれました。④本校生徒が白子海岸の清掃活動を生徒発案で開始しました。このような行いを続けて地域住民の方々とも良い関係を築いていけるように願っています。

高校生になると行動範囲や交友関係も広がります。高校生の周りには有害な情報や危険な誘惑もあります。生活のいろいろな場面で、適切な判断力が求められます。目先や自身のみ損得勘定で判断するのではなく、モラル（倫理・道徳）やマナー（礼儀）に照らして善悪を判断できる人材の育成を目指しています。引き続き本校の教育活動にご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

「実現に向けて、実現してから」

進路指導部 久保田 智

今年度の3年生の進路希望状況と、3月に卒業いたしました生徒の進路状況をお伝えいたします。

【現3年生進路希望状況（2023年5月）】

	男子	女子	合計
四年制大学	23	35	58
短期大学	1	19	20
専門学校	14	53	67
就職・その他	31	29	60

【2023年3月卒業生進路結果】

	男子	女子	合計
四年制大学	34	21	55
短期大学	5	15	20
専門学校	17	54	71
就職・その他	29	39	68

【新型コロナウイルス規制緩和の流れの中で】

GW後に生活の一部と化したマスク着用は、自己の判断となりました。しかしながら、マスクで顔を覆う期間が長かった生徒には、すぐに公共の場で外すことに、ためらいや抵抗を感じているようで、周囲に合わせる雰囲気は感じられます。

一方で、新型コロナウイルス感染による後遺症に悩まされるケースは様々な形で報告されています。周囲には理解されにくい症状もあるようで、どの範囲まで理解して対応するかは学校をはじめ、進路先の各現場でも考慮する点ではないかと考えます。

【就職について】

求人票受領が始まる7月を前に、挨拶に来校される企業数は、昨年と比べ増えたように感じます。加えて、しばらくご縁のなかった企業より声をかけていただくことも、今年の特徴だと思います。新型コロナウイルスの規制と、それに伴う景気の低迷などが重なり、思うように高卒求人を獲得できなかった企業もあったと聴きます。この流れでは、昨年よりも多くの企業からの声をかけていただけるのではないかと期待しております。

しかしながら、新規高卒者の中には、すでに数名の

離職者が出ています。企業選択については、ミスマッチを防ぐべく、ガイダンスや応募前の見学などを実施しています。しかし、就職してみてわかる相違、正社員として社会の一員になることへの自覚の不足、企業の雰囲気など、求人票の記載や短時間での見学では十分に納得できなかった点が、離職につながったのかもしれないかもしれません。ただ、学校斡旋での就職となると、離職の理由が相談できるものかどうかを、自己判断で処理しようとする傾向があることは、もっと説明するところかと考えております。ぜひとも、生徒の身近な環境で支えてみえる方々にも、本人の様子の変化などに気を付けていただくことをお願いいたします。

【進学について】

現3年生と今年3月に卒業した生徒とでは、4年制大学志望の男女数が逆転しているものの、全体の人数はほぼ同じとなっています。

本校から上級学校へ進むための受験方法としては、多くの生徒が総合型選抜や推薦入試から挑み、合格を決めています。選抜内容は学校により異なりますが、出願時の書類と、面接による審査が主になります。本人の有利な受験方法を選択して、合格につなげてほしいと思います。しかしながら、推薦方法にある『指定校推薦』については、本校と上級学校との信頼の下でいただける枠でもあります。進んだ生徒の成績や出席などの評価が悪いことによって、次年度の人数を減らすと報告を受ける事態が発生しています。このことについては、まずは元担任や部活動顧問を通じて、本人へしっかり励むようにとの連絡をしています。

進学、就職共に、高校生活とは大きく環境も変わります。入学や入社から来る安心感、環境の違いから来る不安感などにより、仕事や勉強に向けての意欲が減少することがあるかと思えます。個々の理由は十色あると思います。先にも記しましたが、本人の申し出や周囲の気づきによって、少し時間はかかるでしょうが、立ち直ることもあろうかと思えます。本人を責めるのではなく、前向きに進めるように支えることが、より一層必要になるのではないかと思います。

新たなスタンダードのはじまり

1 学年主任 藤田 みどり

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。春の柔らかな日差しのもと、225名の生徒が無事白子高校に入学することができました。真新しい制服に袖を通し緊張した面持ちで、希望と不安の中、高校生活がスタートしました。学校やクラスメイトの様子を伺いながらも、中学校までに培った礼儀や思いやりを発揮する場面を目にして、心の通ったつながりを大切にして温かい仲間づくりをさらに育めるといいなと感じました。学年の目標として、「多様性を認め合い、安心して通える学校」になることを掲げています。日を追うごとに、素の自分を発揮して、クラスを盛り上げ楽しそうに過ごす姿をみると、今後の成長が楽しみになりました。

高校生になって初めての昼食が4月13日にありました。何気ないことですが「黙食」期間がいつのことかと思うくらい空気が一変して、大きな輪になったり、中庭で食べたりと、お昼休みににぎやかな笑い声をBGMにできる喜びを感じました。

入学後初の学校行事で、4月28日に京都へ遠足に行きました。クラスの親睦を深めることと、班別に分かれてのオリエンテーリングをして公共交通に乗れることを目標に実施しました。京都ならではの魅力的な20コースから希望を取った後、班分けを行いマッチングしたメンバーで、クロムブックを使って事前調べをしました。生徒には「地下鉄バス一日乗車券」を持たせて、選んだコースの名所・ポイント・施設まで行き、集合場所に帰ってくるという行程の中、人気の高かった食べ歩きコースや、歴史好きにはたまらない史跡巡りコースなどを満喫して帰ってくる生徒や、逆方向のバス乗り場に並んでしまって、タイムロスをして回り切れなかった生徒など、集合場所ではたくさんの笑顔とお土産話で盛り上がっていました。帰りの集合場所の変更があったにも拘わらず、地の利のない京都を舞台に、ほとんどの生徒が集合でき「楽しかった」「時間が足りない、また行きたい」という感想を聞く

ことができました。

新しい環境になり張り詰めた心と体をゴールデンウィークで癒した後は、中間考査を迎えました。中学校との違いに戸惑いながらも、単位を取得していくこと、そのためには日々の取り組みや成果を提出し、評価されることを肌身で感じたことと思います。テスト返却では、一喜一憂しながらも、ポートフォリオシートに今回の振り返りをして、次の考査に向けて切り替える姿が見られました。入学して早いようですが、7月には2年生に向けての科目選択が始まります。1学期末の三者懇談会では、卒業後の進路を見据えて生徒自身が決定した選択を応援・支援できる体制を、保護者の方と共有し連携できればと思います。

5月31日には体育祭が行われました。梅雨シーズン到来と台風の動向が不安ではありましたが、縮小版で開催することができました。クラスTシャツを着て団体種目で一生懸命に参加したり、クラスの仲間にエールを送ったりと、マスク無しで心のこもったすてきな笑顔を見ることができました。

今年度入学した生徒は、新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことで、今まで滞っていた行事や活動の歴史を再構築していく学年になります。白子高校の地域に愛されている伝統を引き継ぎながらも、一つ一つの足跡がコロナ後のスタンダードになっていきます。生徒一人一人から発揮されるアイデアやエネルギーを形にできるよう、担任団も一緒に成長できればと思います。保護者の皆様とも連携をさせていただき、今後ともお子様の成長にご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



2023年度 白子高校人権教育の推進に向けて

人権教育推進担当 前川 誠

今年度、本校の人権教育推進係を担当しています。よろしくお願いたします。

さて、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になりました。感染症法では、感染症について感染力や感染した場合の重篤性などを総合的に勘案して1～5類等に分類し、感染拡大を防止するために行政が講ずることができる対策を定めています。新型コロナウイルス感染症の位置付けは、これまで「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」でしたが、「5類感染症」になりました。法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、人々の自主的な取り組みをベースとした対応に変わりました。

厚生労働省のHPによれば、特にマスクについては、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることが基本となりました。ただし「三密」が回避できない、「人と人との距離」が確保できないなどの場合は、一律に求めることはしないが、マスク着用を推奨するとし、高齢者等重症化リスクの高い方は、換気の悪い場所、不特定多数の人がいるような混雑した場所、近接した会話などを避けることが、感染防止対策として有効であるとしています。

人権の立場から、この3年間のいわゆるコロナ禍を振り返ってみますと、「個人の自由と私権の制限」・「公共の利益と財産権の保障」について、どのように天秤がかけられたのかが問われています。

現行憲法上では、マスクの着用を義務化することは

できませんし、ましてや社会のロックダウンは不可能です。しかし政府の要請を受けて、国民があたかも義務のごとくマスクを着用することや、一定地域を越えての行動制限が一般化しました。

医療においては、コロナ感染患者を受け入れる医療機関に、医療従事者を公的に派遣する措置はなく、結果として医療逼迫を招く要因となっていました。医師法第1条は、「医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」となっています。しかし、憲法第29条「財産権は、これを侵してはならない」の条項が、いわば有事といってよい情勢であるにも関わらず、開業医がコロナ感染症指定病院への派遣要請を断わる実際のところの口実となっていたようです。どうやら政治家・官僚・医師会の三者による利権のトライアングルが、医療政策及び医療資源配置の硬直性と脆弱性を招いていたものと思われます。これらのことは、結局のところ、現行憲法上の限界に関わっています。

本校では、人権教育の目的を「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動ができる力を育む」としています。お互いの利害関係が相違する場合、自分の人権と他者の人権を、どう調整をはかりながら、人権文化を構築していくのかということが、このコロナ禍における教訓であり、今後の課題でもあるといえます。

相談力

スクールカウンセラー 市川倫子

スクールカウンセラーの市川です。毎週木曜日の午後、本館3階の相談室におります。一人で悩まずに、「人に相談できる力をつけてほしい」をモットーに、広くいろいろな方（生徒、保護者等）に来室を呼び掛けています。

コロナ禍は大変でしたが、全てが悪い方向に行ったのではなくて、一つ良いことがありました。ネットの環境が格段に良くなったことです。対面のカウンセリングだけでなく、ネット上で顔を見せて話を

聞くことができ、電話やメールよりはじっくりカウンセリングができています。

高校生は青年期真っ只中。青年期は自分がどのような人間であるのか、どのような人になりたいのかなどを考え、自分の価値を見出す時期です。自己を確立する、人生の中で最も大切な時期の一つです。だからこそ不安・いらだち・反抗など精神の動揺が起こります。ですが、そういうことを見せないで「明るく」「軽く」生きている傾向が強くなっている

という調査結果があります。無理をして悩みのない良い生徒を演じている生徒が増えているといっても良いでしょう。

弱みを見せませんから、ある日一気に状態が変化して、登校しにくくなったり、自分を苦しめるストレス発散方法をとったりします。周りはなぜ?となります。だからこそ「人に相談できる力をつけてほしい」というカウンセラーの思いがあるのです。

どうしても問題が起きてから相談室に来てくれることが多いので、時間はかかりますが少しずつ気持ちや行動の整理ができていくものです。カウンセラーはそのお手伝いをします。普段とは違うイライラ感、落ち込み、やる気の喪失感など、早ければ早いほど解決が早いものです。ぜひ、相談室を覗いてみてください。

生活創造科から新たな地域連携を

生活創造科 鈴山 いずみ

4月に1年生を迎え、生活創造科は18年目となりました。心豊かなライフスタイルを創造(クリエイト)する力を身につけることを目標とし、2年次からの服飾・食彩の両コースの授業では、県内外の専門学校や地域のプロフェッショナルを招いて調理・製菓・製パン、陶芸・伊勢型紙・テーブルコーディネート・デザイン画・ウォーキングなど、特別講義や講習会の機会を多数設け、衣・食の専門性を追求するよう力を注いでいます。また両コースが目指す、家庭科技術検定1級の取得や、校内外でのファッションショー、各種料理・製菓コンクールに向けて挑戦していくところです。

現在、1年生は家庭科技術検定4級取得に向けて、きゅうりの半月切りと基礎縫いに奮闘中です。2年生は各コースに分かれての授業がスタートし、専門知識と一段高いレベルでの技術を身につけるべく、実習に取り組んでいます。3年生服飾コースは、2学期に臨むファッションショーに向けてのドレス制作と検定取得、食彩コースは、コンクールに向けての献立作成や作品検討に取り組んでいます。特に検定については、学校の授業時間内だけでなく、ご家庭において復習や練習などが必須となって参ります。どうか、ご支援と、激励のお声がけをお願いいたします。

さて、新型コロナウイルスの扱いが変更になったとはいえ、感染予防対策を継続して実施し、安全安心な教育活動となるよう、努力しております。特に調理実習時にはマスク着用をお願いしております。今後、外部での学習活動・成果披露の機会が多くなって参りますので、安全安心な活動となるようご協力をお願いいたします。

生活創造科家庭クラブの行事である「高齢者お弁当サービス」につきましては、「まちづくり協議会」への活動主体が変更となり、話し合いが続いております。地元白子地域の皆様に楽しみにいただいている行事ですので、継続していこうと考えております。

鈴鹿市社会福祉協議会公式YouTubeチャンネルでは、本学科の福祉ボランティア活動のコンセプトを詳しく説明しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

これまで生活創造科は、授業や放課後の活動をはじめ、イベントや家庭クラブ活動などにおいて、多くの方々を支えていただいていた歩んで参りました。時代と共に求められるもの、活動方法などの変化はございましたが、私たちは常に感謝の気持ちを忘れず、生徒達が生き生きと活動できる環境づくりに全力を尽くしたいと考えております。今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



食彩コースのコンクール作品試作



服飾コースのデザイン画講習会

文化教養（吹奏楽）コースについて

普通科文化教養（吹奏楽）コース主任 齋田 努

文化教養（吹奏楽）コースの主任を担当しています、齋田努と申します。本年度も3名体制で運営しています。

昨年度は、授業における新たな取り組みとして、社会教育福祉協議会と連携し白子地区限定ではありますが、なかなか外出することが難しい高齢者の方に生の音楽を届ける「アフタヌーン・コンサート」を実施しています。演奏形態は、楽器のソロと少人数のアンサンブルです。約1時間の演奏では、童謡や唱歌を電子ピアノの伴奏で演奏します。どの曲もなじみのある曲で、演奏に合わせ口ずさんでいただくことで、鑑賞というより、参加型のコンサートになっています。授業の実習で取り組んでいるので、回数に制限はありますが、昨年度は3回。本年度も6月より一月に一回のペースで実施しています。地域に愛される文化教養（吹奏楽）コースとして、生

徒の無理のない範囲で活動していきたいと考えています。引き続き地域の多くの方々に、吹奏楽コースをより知っていただくことで、志望数増加に繋げていきたいと考えています。

また、文化教養（吹奏楽）コースの補習的役割の吹奏楽部では、2つの全国大会で入賞を果たしました。11月に開催されました、日本管楽合奏コンテスト全国大会では、15名以下のS部門で最優秀グランプリ・文部科学大臣賞を受賞しました。これは、全部門通じて三重県の高校としては初の快挙です。3月のジュニア管打楽器コンクール全国大会、ソロ部門ユーフォニアムの部では、表愛乃さん（現名古屋音楽大学）が銀賞（2位）、アンサンブル部門打楽器の部では、銅賞（3位）を受賞しました。

これからも三重県内の吹奏楽をリードする存在として、活動に取り組んでいきたいと考えています。

令和5年度 三重県高校総合体育大会等結果

【女子テニス部】

（団体）1回戦 白子0-3 津

【男子テニス部】

（団体）2回戦 白子0-3 伊勢

【女子ハンドボール部】

1回戦 白子27-9 桑名

2回戦 白子 8-42 四日市商業

【男子ハンドボール部】

1回戦 白子20-31 名張青峰

【女子バスケットボール部】

《中地区予選》

1回戦 白子31-65 鈴鹿高専

【男子バスケットボール部】

《中地区予選》

1回戦 白子170-11 青山

2回戦 白子68-65 久居

準決勝 白子50-66 稲生

3位決定戦 白子63-53 伊賀白鳳

《県大会》

1回戦 白子44-58 四日市農芸

【野球部】

《春季東海地区高等学校野球三重県大会 中地区予選》

一次予選1回戦 白子4-9 津

二次予選1回戦 白子11-8 名張

二次予選2回戦 白子14-7 津東

二次代表決定戦 白子0-14 久居農林

【女子バレー部】

2回戦 白子 2-0 四日市西

3回戦 白子 1-2 久居

【サッカー部】

1回戦 白子 7-0 桑名北・石薬師

2回戦 白子 0-7 津工業

【剣道部女子】

(団体) 5位

1回戦 シード

2回戦 白子 ○-× 上野

3回戦 白子 ×-○ 三重

【剣道部男子】

(団体) 5位

1回戦 白子 ○-× 津

2回戦 白子 ○-× 伊勢

3回戦 白子 ×-○ 四日市工業

(個人) 5位 船木大輔

→東海総体出場

【女子卓球部】

(団体) 優勝 →インターハイ・東海総体出場

28年連続37回目

(S) 優勝 由井心菜

2位 竹原優梨

3位 土井華楓

4位 土井颯月

→インターハイ・東海総体出場

5位 平岡凜花

6位 西村玲美

8位 松尾和奏

→東海総体出場

(D) 優勝 土井華楓・土井颯月

2位 由井心菜・竹原優梨

→インターハイ・東海総体出場

3位 竹原優菜・平岡凜花

→東海総体出場



卓球部女子県大会優勝

【男子卓球部】

(団体) 優勝 →インターハイ・東海総体出場

4年連続13回目

(S) 優勝 北村悠貴

2位 大畑瑛祐

3位 山野煌介

4位 古田諷

→インターハイ・東海総体出場

5位 松尾尚紀

6位 中野圭斗

→東海総体出場

(D) 優勝 山野煌介・林誠也

2位 北村悠貴・大畑瑛祐

→インターハイ・東海総体出場

3位 中野圭斗・松尾尚紀

4位 古田諷・高橋陸

→東海総体出場



卓球部男子県大会優勝

東海総合体育大会結果

【剣道部男子】

(個人) 船木大輔 1回戦敗退

【女子卓球部】

(団体) 5位

(S) 5位 由井心菜
1回戦敗退 竹原優梨
1回戦敗退 土井華楓
1回戦敗退 土井颯月
1回戦敗退 平岡凜花
1回戦敗退 西村玲美
1回戦敗退 松尾和奏

(D) 1回戦敗退 土井華楓・土井颯月
1回戦敗退 由井心菜・竹原優梨
1回戦敗退 竹原優梨・平岡凜花

【男子卓球部】

(団体) 準優勝

(S) 9位 北村悠貴
9位 大畑瑛祐
9位 古田諷
1回戦敗退 山野煌介
1回戦敗退 松尾尚紀
1回戦敗退 中野圭斗

(D) 5位 北村悠貴・大畑瑛祐
1回戦敗退 山野煌介・林誠也
1回戦敗退 中野圭斗・松尾尚紀
1回戦敗退 古田諷・高橋陸